



# 前進

第9号

11月10日発行

文責：濱田

育てたい力：共感力・探究力・協働力

## ◎行事がたくさん2学期。

新型コロナウイルスの感染状況もリスクレベル1が続き、2学期の学校行事等も順調に実施できています。10月21日(金)・22日(土)は6年生修学旅行、10月27日(木)は4年生社会科見学、10月31日(月)・11月1日(火)は5年生集団宿泊教室と、行事が目白押し10月でした。

修学旅行では、長崎方面で平和について深く学びました。特に語り部の方のお話は、昭和20年8月9日の惨状が目の前に浮かんでくるほど詳しいものでした。「思い出すのもつらいけど、今、皆さんに伝えなければ、今後伝える人は少なくなっていくのです。」とお話されたことが印象に残りました。

4年生は、山都町の通潤橋と円形分水を見学しました。通潤橋の雄大な姿に、「白糸台地に水を引きたい」と願った当時の人々の思いと、その夢を実現させるために努力した布田保之助の業績を実感できました。特にサイフォンの原理を活用した工夫など、実際に見学をとおした実体験ならではの学びがあったと思います。

5年生は、あしきた青少年の家で2日間多くのことを学びました。最初は集団行動がうまくできない場面も多々見られました。しかしマリン活動、キャンドルの集いなどのプログラムを積み重ねるに連れ、



【平和公園での平和集会】



【通潤橋をバックに集合写真】



【やや緊張気味にペーロンで出発】

しかしマリン活動、キャンドルの集いなどのプログラムを積み重ねるに連れ、

グループで行動することや協働することの大切さを実感できたと思います。特に印象的だったのは2日目のローラーリージュでした。私たちがヒヤヒヤするほどのスピードで運転していましたが、子供たちは終始笑顔でした

### ◎「つなしのお祝い」をいただきました。

1月9日（水）に芦北地区更生保護女性会の方が来校され、4年生の子供たちにつきたての餅とノートのプレゼントをしてくださいました。

数を数えるときに九つまでは「つ」がつきますが、十からつかなくなります。

「つなし」とはこの十のことで、かつて成人式を迎える20歳までの半分まで成長した節目の年をお祝いする風習に基づき、本校の4年生にお祝いをお届けいただいたものです。

代表で受け取った子供たちは、感謝の言葉と「成人するまでの時間、しっかり成長したいと思います。」と気持ちを述べました。ここでは紹介できませんが、いただいたメッセージには子供たちの成長を願ってくださる芦北地区更生保護女性会の皆様の思いが綴られており、地域の方の温かい気持ちをうれしく感じたひとときでした。



### ◎よみがえりつつある水俣の海

1月4日（金）に、水俣ダイビングサービスの森下誠さんが来校され、水俣の海の現状と、その素晴らしさを発信されている活動について5年生にお話しいただきました。

水俣の海の動画に子供たちは興味津々で、特にヒメタツの姿を食い入るように見つめていました。生命の不思議さと、それを取り巻く環境の大切さを実感したことと思います。特にいくつかの生物を紹介されるときに、「これは芦北の海でも見られますよ。」とお話しされる際に、うなずく子供たちの姿が印象的でした。



【校長室から】先日、佐敷小の敷地内を見学させてほしいというご依頼の電話がありました。電話をかけられた方は、「昭和14年に佐敷小を卒業し、長く芦北を離れていた母に、思い出の佐敷小を見せてあげたい。」という思いを伝えられました。当日校長室で、昭和14年に建設された校舎の写真を見ていただきました。お母様は大変懐かしい様子で、「このできたばかりの第1棟で自分は学びました。」と話されました。佐敷小の長い歴史を感じた出来事でした。